

外為マンズリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/12/01

円とドルを見ながら

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	<p>国外要因に左右される展開か</p> <p>予想レンジ: 97.500 ~ 102.800 円</p>	2 - 3
<a href="#">NZドル/円</a>	➡	<p>NZドル高牽制発言に注意</p> <p>予想レンジ: 88.500 ~ 95.000 円</p>	4 - 5
<a href="#">ランド/円</a>	➡	<p>外部要因を見極め</p> <p>予想レンジ: 10.100 ~ 11.300 円</p>	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

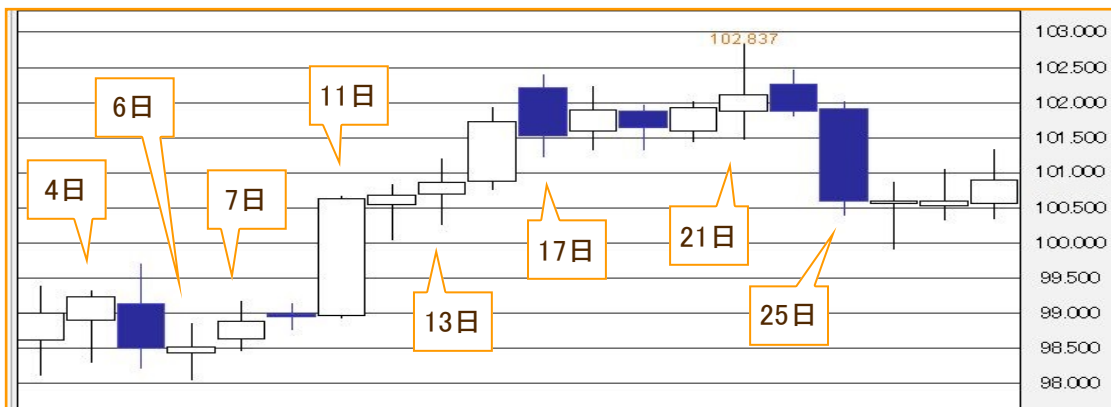
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 豪ドル/円 11月の推移

AUD/JPY

11月の豪ドル/円相場は98.060～102.837円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.1%の上昇(豪ドル高・円安)となった。

前月末に日銀が行った追加金融緩和による円売りの流れを引き継いでスタートすると、本邦消費増税延期観測から来る円売りを受けて堅調に推移。中国の利下げもあり、21日に昨年4月以来となる102.837円の高値を記録。ただ、その後は豪ドル/米ドル相場が0.85ドルを割り込み2010年7月以来の安値水準に下落したのを始め、原油価格の下落や豪準備銀行(RBA)サイドからの利下げ示唆発言が重石となり、やや値を下げた。



## 四本値

OPEN	98.635
HIGH	102.837
LOW	98.060
CLOSE	100.899

4日	豪準備銀行(RBA)理事会で政策金利の据え置き(2.50%)が決定された。声明文で「主に米ドルの上昇を反映して足元で下落した。だが、特に最近数カ月の商品価格の一段の下落を考慮すると、豪ドルはファンダメンタルの価値の大半の推計を依然として上回っている」とするも、前回の表現(歴史的水準より高い)と比べ豪ドル高への懸念が和らいだとの見方から、豪ドル/円は99円台に乗せた。
6日	豪10月雇用統計は失業率が事前予想通り6.2%であった。新規雇用者数は2.41万人増と予想(2.00万人増)を上回る伸びを示すも、前月分の正規雇用者数が2.16万人増→3.49万人減に修正されるなど、内容的には弱い結果となった。直後の豪ドル/円相場は値動きの荒い展開となるも一時的だった。
7日	RBA四半期金融政策報告が発表され、「成長予測を維持、豪ドル安を反映してインフレ見通しは小幅引き上げ」としたものの、「金利の安定期間を設けるのが最も賢明である可能性」「豪ドルは依然ファンダメンタルズの推移からみて高水準」などと、これまでの姿勢に変化が見られなかったため、豪ドル/円相場の反応は限定的であった。
11日	来年10月に予定されている本邦の消費増税が先送りされるとの観測から日経平均が上げ幅を拡大すると、豪ドル/円は上昇。その後はドル/円相場で円売り・ドル買いが加速した事もあり、100.672円まで一段高となった。
13日	ケントRBA総裁補が「外国為替市場での介入の可能性を完全に排除する事は賢明ではない」と発言した事を受け、豪ドル/円は一時100.276円まで急落。ただ、その後は欧州株高を手掛かりに101.207円まで反発した。
17日	本邦7-9月期国内総生産(GDP)・一次速報が前期比年率-1.6%と、予想(+2.2%)外の減少となった事を受けて円売りが強まり、豪ドル/円は102.400円まで上昇。しかし、この弱い結果を嫌気して日経平均が軟調に始まると、101円242まで急反落となった。
21日	中国人民銀行が政策金利の引き下げを発表。これを受け、豪ドル/円はわずか10分程で約1円急騰。ただ、買いの勢いが一服すると上げ幅を縮小するなど、値動きの荒い展開となった。
25日	ロウRBA副総裁が「利下げを必要とすれば我々は可能」「豪ドルのさらなる調整がやがて来ると予想」等と発言。これを受け、豪ドル/円は急落。この流れは欧米市場でも続き、100.407円まで一段安となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# AUD/JPY

## 日経平均

OPEN	16732.85
HIGH	17520.54
LOW	16713.37
CLOSE	17459.85

## NYダウ平均

OPEN	17390.90
HIGH	17894.83
LOW	17278.36
CLOSE	17828.24

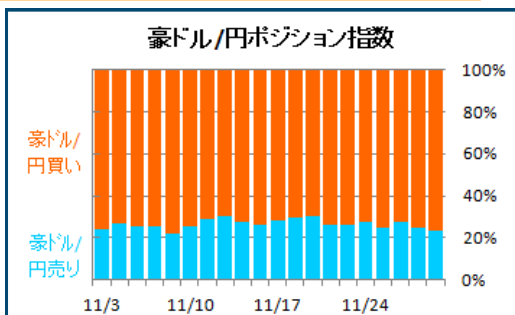
## 上海総合指数

OPEN	2425.225
HIGH	2683.179
LOW	2401.750
CLOSE	2682.835

## 豪10年債利回

OPEN	3.3000%
HIGH	3.3620%
LOW	3.0260%
CLOSE	3.0260%

## 11月のポジション動向



## 12月の注目ポイント

### 月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・RBAキャッシュターゲット(2日)
- ・中国12月HSBCフラッシュ製造業 PMI(16日)
- ・米11月雇用統計(5日)
- ・日7-9月期国内総生産・二次速報(8日)
- ・米FOMC(16-17日)
- ・豪11月雇用統計(11日)
- ・日銀金融政策決定会合 (18-19日)
- ・本邦衆議院選挙(14日)
- ・日銀短観(15日)
- ・主要国株価
- ・RBA議事録(16日)
- ・国際商品価格

## 12月の見通し

先月の豪ドル/円は、豪州発の材料で動く事が少なかった一方、米国の利上げ期待を背景として豪ドル/米ドル相場では豪ドル売り・米ドル買いが強まった事や、本邦消費増税延期に絡む株高を受けて動く場面が多かった。今月も引き続き、円とドルの事情に左右される展開となりそうだ。まず円について、14日の本邦衆院選で自民党の勝利ならアベノミクス継続との見方から円安・株高が進む可能性がある。その場合は豪ドル/円を押し上げる材料となろう。ただ、過度の円安スピードを懸念した本邦政府サイドからの円安牽制発言には注意したい。次にドルについて、米各種経済指標を確認した上で、米FOMCの声明に注目したい。声明で利上げ開始(市場では15年第2四半期予想が多い)の前倒しが印象付けられれば、2.1%台まで低下している米長期金利が上昇して豪ドル/米ドルが一段と下落し、豪ドル/円が連れ安となる事も考えられる。

一方、豪州国内では、先月のRBA理事会やRBA四半期金融政策報告は、いずれも前回は踏襲する内容となり、新味に乏しかった。足元のインフレ率がRBAの目標レンジ(年2~3%)内に納まっている事や、豪州経済が力強さを欠いている事から、RBAが早期に金融政策を転換する可能性は小さい。よって、豪ドル/円は先月に引き続き、円や米ドルの動きに左右される事となりそうだ。(川畑)

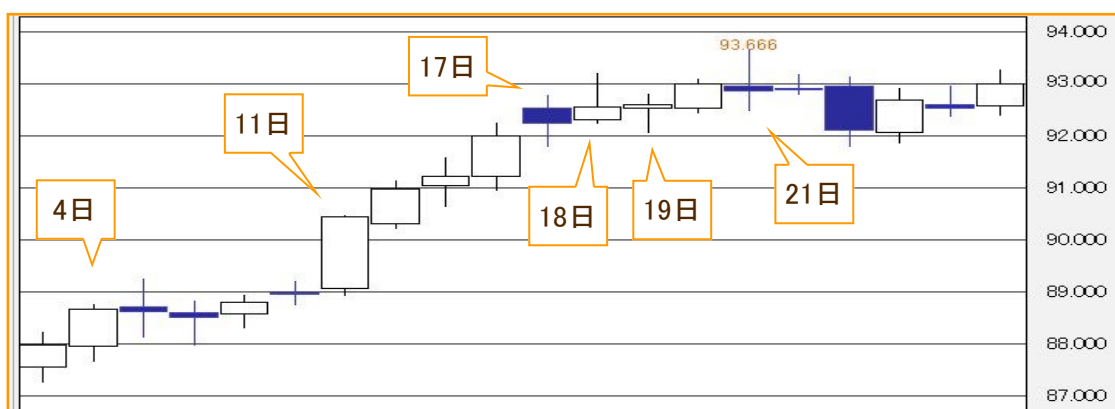
(予想レンジ: 97.500~102.800円)

## NZドル/円 11月の推移

NZD / JPY

11月のNZドル/円相場は87.265～93.666円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約6.3%の大幅上昇(NZドル高・円安)となった。

前月末に日銀が行った追加金融緩和による円売りの流れを引き継いでスタートすると、本邦消費増税延期観測から来る円売りを受けて堅調に推移。中国の利下げもあり、21日に2007年7月以来となる93.666円の高値を記録した。その後はNZドル/米ドル相場が上値重く推移する一方、ドル/円が堅調に推移したため、NZドル/円はこれらに挟まれて92円を中心としたもみ合いが続いた。



## 四本値

OPEN	87.568
HIGH	93.666
LOW	87.265
CLOSE	93.007

4日	NZ第3四半期失業率が5.4%(予想:5.5%)と、2009年第1四半期以来の低水準となった。これを好感してNZドル/円は88.763円まで上昇した。
11日	来年10月に予定されている本邦の消費増税が先送りされるとの観測から、日経平均が上げ幅を拡大し、円売りが強まった。その後、NZ準備銀行(RBNZ)が半期に一度公表する金融安定報告で「NZドルはなお高い、将来的に下落する可能性」「持続可能な水準を上回っている」との見方が示されるとNZドル/円は40銭弱急落するも、RBNZのウィーラー総裁が「今年複数回利上げを実施したが、金利は依然低く景気を刺激するような水準」「現在の政策金利は3.5%だが、4.5%付近が中立的な水準」と議会で証言した事もあり、売り一巡後は90.479円まで再び上昇した。
17日	NZ7-9月期小売売上高が前期比+1.5%と予想(+0.8%)を上回った事を受け、NZドル/円は小高くスタート。本邦7-9月期国内総生産(GDP)・一次速報が前期比年率-1.6%と、予想(+2.2%)外の減少となった事を受けて円売りが強まると、NZドル/円は92.791円まで一段高となった。しかし、この弱い結果を嫌気して日経平均が軟調に始まると、その後は売り優勢となり、欧州市場で91.812円まで下落した。
18日	欧州株の上昇や本邦政局に絡む円売りの影響を受けて93.213円まで上昇したが、NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札が不調だった事から反落した。
19日	NY市場終盤、NZのイングリッシュ財務相が「商品価格の下落と消費者物価の弱い伸び、世界経済の先行き不透明感が国内経済を圧迫、農業や企業部門の収入に影響を及ぼし、政府の歳入も減少する」「2014年に財政黒字が7年ぶり黒字化するの難しい」との見方を示したが、2014-15年度の黒字化達成には自信を示した事もあり、市場の反応は限定的であった。
21日	中国人民銀行が政策金利の引き下げ発表すると、NZドル/円は2007年7月以来となる93.666円まで約1円急騰。ただ、買いの勢いが一服すると発表前の水準付近まで押し戻されるなど、値動きの荒い展開となった。



# NZD / JPY

## 日経平均

OPEN	16732.85
HIGH	17520.54
LOW	16713.37
CLOSE	17459.85

## NYダウ平均

OPEN	17390.90
HIGH	17894.83
LOW	17278.36
CLOSE	17828.24

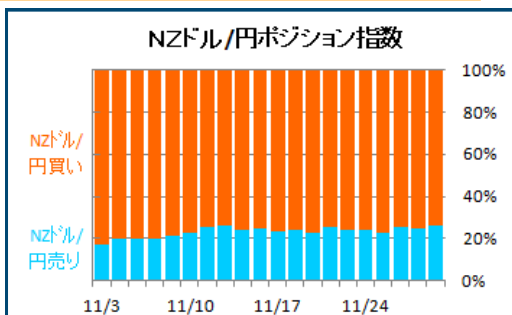
## 上海総合指数

OPEN	2425.225
HIGH	2683.179
LOW	2401.750
CLOSE	2682.835

## NZ10年債利回

OPEN	4.0100%
HIGH	4.1160%
LOW	3.9080%
CLOSE	3.9090%

## 11月のポジション動向



## 12月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・NZ乳業大手フォンテラ入札(2日、16日)
- ・米FOMC(16-17日)
- ・米11月雇用統計(5日)
- ・NZ7-9月期GDP(17日)
- ・日7-9月期国内総生産・二次速報(8日)
- ・日銀金融政策決定会合(18-19日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(10日)
- ・本邦衆議院選挙(14日)
- ・日銀短観(15日)
- ・国際商品価格
- ・中国12月HSBCフラッシュ製造業PMI(16日)
- ・主要国株価

## 12月の見通し

今月は10日に、NZで金融政策発表が予定されている。7-9月期のインフレ率がRBNZのインフレ目標(1~3%)下限に接近している上、NZ乳業大手フォンテラが実施する乳製品オークションで入札価格が下落傾向であることから、RBNZが今回の理事会で利上げ再開に舵を切る可能性は小さい。NZドル/米ドルは先月末で今年高値時点から約1000ポイント下落したが、1日早朝にウィーラー総裁が、「NZドルの実効為替レートの高い水準は依然として不当かつ持続不可能なままだ」と発言するなど、RBNZは依然として現在のNZドル相場は高いと認識している。引き続き、RBNZ声明やNZ要人からのNZドル高けん制発言には注意したい。NZの景況感を知る上で、NZ大手フォンテラが実施する乳製品入札の結果やNZ7-9月期GDP、NZと貿易的結びつきの強い中国経済の動向にも注目されよう。

その他、本邦政局などに絡んで円売りの流れが続くのかと、米経済指標を受けてFOMCでどのような見解を示すのかもポイントである。本邦衆議院選挙の結果、自民勝利なら、市場ではアベノミクス継続により株買い・円売りの流れが続くと予想されており、NZドル/円を押し上げる材料となろう。ただ、米FOMC声明で米利上げ観測が前倒しになるとの見方が強まれば米ドル買いが強まり、NZドル/米ドルの下げに連れて下落する事も考えられる。引き続き、円と米ドルの動向に注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 88.500~95.000円)

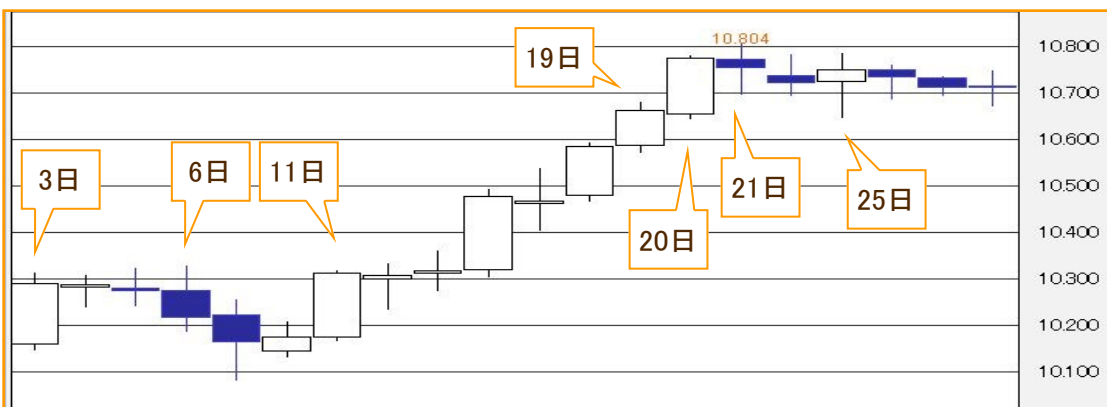
## ランド/円 11月の推移

# ZAR/JPY

11月のランド/円相場は10.085～10.804円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約5.3%の大幅上昇(ランド高・円安)となった。

前月末に日銀が行った追加金融緩和による円売りの流れを引き継いでスタートすると、本邦消費増税延期観測から来る円売りを受けて堅調に推移。中国の利下げもあり、21日に昨年5月以来となる10.804円の高値を記録した。

その後は原油相場が下げ幅を拡大した事で一般的に米ドル買いが優勢となり、カナダ/円や豪ドル/円が弱含む一方、ランド/円は10円台後半で強含んだ。その理由として、エネルギー源の原油の多くを輸入に頼り、また、経常収支が赤字である南アにとって原油安がむしろ追い風と見なされ、ランド相場を支えた事が挙げられる。



### 四本値

OPEN	10.160
HIGH	10.804
LOW	10.085
CLOSE	10.714

3日	前月31日に日銀が予想外の追加金融緩和に踏み切り、円売りが強まった余韻が残る中、米10月ISM製造業景況指数を受けてドル/円が一段高となると、ランド/円は一時10.30円台を回復した。
6日	格付け会社ムーディーズが、さえない南アフリカの中期成長見通しなどを理由に同国の国債格付けを従来の「Baa1」から「Baa2」に一段階引き下げた。これを嫌気してランド/円は10.189円まで下落した。
11日	来年10月に予定されている本邦の消費増税が先送りされるとの観測から日経平均が上げ幅を拡大すると、ランド/円は上昇。その後はドル/円相場で円売り・ドル買いが加速すると一段高となった。
19日	南ア10月消費者物価指数は事前予想通り前年比+5.9%と、南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標レンジ(年3～6)内に納まった。ただ、ランド/円相場の反応は薄かった。
20日	クガニャゴ氏が就任後初となる南アフリカ準備銀行(SARB)の金融政策発表が行われ、政策金利の据え置き(5.75%)が決定された。その際に出された声明で今年の南アフリカの経済成長率見通しが引き下げられた(1.5%→1.4%)が、いずれは利上げを実施する必要があるとの見解も示したため、ランド/円相場の反応は限定的。その後は安く始まったNYダウ平均の反発を手掛かりに、引け間際に10.779円まで一段高となった。
21日	中国人民銀行が政策金利の引き下げを発表した事を受け、ランド/円は昨年5月以来となる10.804円まで上昇。ただ、買いの勢いが一服すると発表前の水準付近まで押し戻されるなど、値動きの荒い展開となった。
25日	南ア7～9月期国内総生産(GDP)は前期比年率+1.4%と予想(+1.5%)を下回る伸びとなり、前回分が下方修正(+0.6%→+0.5%)となった。ただ、ランド/円相場の反応は限定的であった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## 日 経 平 均

OPEN	16732.85
HIGH	17520.54
LOW	16713.37
CLOSE	17459.85

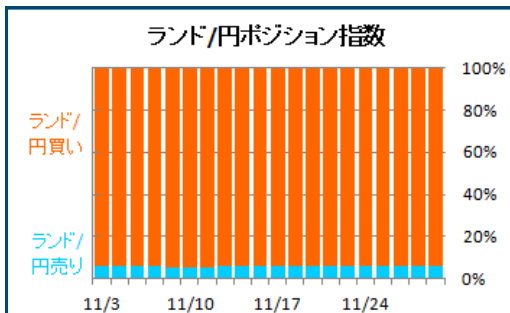
## NYダウ平均

OPEN	17390.90
HIGH	17894.83
LOW	17278.36
CLOSE	17828.24

## N Y 金

OPEN	1171.10
HIGH	1207.60
LOW	1130.40
CLOSE	1175.20

## 11月のポジション動向



## 12月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米11月雇用統計(5日)
- ・日7-9月期国内総生産・二次速報(8日)
- ・南ア11月消費者物価指数(10日)
- ・本邦衆議院選挙(14日)
- ・日銀短観(15日)
- ・中国12月HSBCフラッシュ製造業PMI(16日)
- ・米FOMC(16-17日)
- ・日銀金融政策決定会合(18-19日)
- ・国際商品価格
- ・主要国株価

## 12月の見通し

先月、南アでは国債が格下げされ、新総裁就任後初となる金融政策会合が行われるも、いずれもランド/円相場を大きく動かす材料にはならなかった。むしろ、本邦政局が相場を動かす要因となった。

今月は南ア国内では主だった経済イベントが予定されておらず、先月以上に外部要因に左右される展開となりそうだ。その中でも①本邦政局に絡む円相場の動向、②米FOMC声明、に注目したい。①は本邦衆議院で自民が勝利し、アベノミクスが継続するとの見方に繋がれば、市場では株高・円安が継続すると見る向きが多く、ランド/円上昇要因となろう。②は米利上げ時期が前倒しされるとの見方が強まれば、米国の投資妙味が増してドルが買われる公算であり、ドル/ランド相場が上昇(=ドル買い・ランド売り)してランド/円相場を押し下げる可能性がある。どちらの要素が強くなるかを見極める事が、ランド/円相場を見通すポイントとなるだろう。(川畑)

(予想レンジ: 10.100~11.300円)